

測 定 する 能 力	論理的言語力	論理的読解力A	論理的読解力B	論理的思考力	論理的表現力
	日本語を論理的に扱う能力。一文の構造を論理的につかまえたり、「ことばのつながり」、指示語・接続語などを論理的に扱う力。	文章を論理的に読む力。文章を論理的に説く力。文と文との論理的関係、段落と段落との論理的関係、文章全体の論理構造を把握する力。	文章の要点を論理的に整理し、まとめる力。論理的に説明する力。おもに記述力・論述力。論理的に書く力。	文章の要点を論理的に整理し、まとめる力。論理的に説明する力。おもに記述力・論述力。論理的に書く力。	他者に向かって、論理的に話す力。論理的に思考し、自分の考えを論理的に書く力。

《問題Ⅰ》 論理的言語力

(40点)

● 解答

第一問

(1) 行数	14 行目	正	誤
(2) 行数	18 行目	正	誤
(3) 行数	10 行目	正	誤
(4) 行数	6 行目	正	誤

あのように
このように
影響自体が
影響自体を
なぜなら
だから
(そこで、そのため、したがって)
ハリケーンなど異常気象による、
災害が
ハリケーンなど、異常気象による災害が

第二問

第二段落…温暖化は、世界
第三段落…温暖化対策とい
第四段落…しかし、「緩和
第五段落…「緩和」策が、

■配点 第一問 各5点

第二問 各5点

◆ 解説

第一問

(1) 直前まで述べられていた「適応」策の具体例を直後でまとめてあるので、「このように」。

(2) 「和らげることはできない」の主語は「『適応』策」であり、「影響自体」は目的語なので、「影響自体が」ではなく「影響自体を」。

(3) 直前の「今後も」影響は避けられないが、直後の「対処療法的な取り組みが必要」の理由となっているので、順接の「だから」。「そこで」「そのため」なども可。
(4) 「異常気象による」は直後の「災害」にかかっているので、読点は不要。

第二問

第一段落で地球温暖化の現状、第二段落では温暖化による影響の具体例を述べています。第三段落以降は、温暖化対策の話。第三段落では、温暖化対策のうち「緩和」とについて説明し、第四段落では「緩和」と対比させる形で「適応」という新しい考え方を紹介しています。第五段落で「緩和」と「適応」それぞれの役割をまとめています。

《問題Ⅱ》 論理的読解力A

(40点)

● 解答

第一問

(a) キ (b) エ (c) カ

(d) ウ (e) イ (f) ク

(g) ア (h) オ

第二問 (1) ウ (2) オ (3) イ

(4) エ (5) ア

第三問 私は危く叫び声

第四問 生きながら焼かれる女が自分の娘と

知った驚きと、それを目の当たりにする恐れと悲しみが混じった感情。

■配点 第一問 各2点 第二問 各2点

第三問 4点 第四問 10点

◆ 解説

第一問

副詞的な用法以外に、「業苦」「微笑」と名詞が含まれることに注意。副詞は用言との関係から、決定します。

(a) 「交された」の主語となるものは「微笑」。
(b) 「必定」は「遂げる」を修飾する言葉。「必定」は、「必ずくなる」ということ。

(c) 「矢庭に」は「さし伸ばして」を修飾する言葉。「矢庭に」は、「いきなり」、「その場ですぐ」という意味。

(d) 「顔貌ははつきりと分りません」とあることから、「生憎」。
(e) 「歴々と」は「描かれました」を修飾する言葉。
(f) 「流石に」は「変えて」を修飾する言葉。
(g) 「到底」は「思われません」を修飾する言葉。「到底」の後に否定の語を伴って、否定を強調します。
(h) 直後に「を」が来るので、目的語になるのは、「業苦」。

第二問

(1) 選択肢の中で時間的に順番が一番早いのが、ウ。
(2) 直後の「その車」の指示内容がオの「予が日頃乗る車」。
(3) 直後の「その女めは」の指示内容が、イの「罪人の女房」。
(4) 直後に「見のがすな」「見て置け」とあるのは、エにあるように屏風を仕上げの手下とするため。
(5) その後、大股様も一緒に見物することから、ア。

第三問

生きながら焼かれるのが良秀の娘と分かった場面なので、「あ、誰か見違えを致しましょう。」の直後に問題の文が入ります。それを受けて、「私は危く叫び声を立てようと致しました。」と続きます。

第四問

自分の娘が目の前で焼かれる場面を見たときの良秀の気持ちを説明。傍線部直後に「恐れと悲しみと驚き」とあるので、これをそれぞれ具体的に説明します。

《問題Ⅲ》 論理的思考力

(40点)

● 解答

第一問

(1) 周囲の情報を論理で整理するのが人間である。
(2) 日本人は相手の気持ちを察しながら会話をします。

第二問

(1) 絶滅の危機に瀕する種の数は百万におよぶ。
(2) 道徳教育は正しく判断する能力が前提になる。

第二問

- (1) 朝から気持ちの良い小春日和だ。
- (2) 彼は新しいことに疑心暗鬼だ。

第四問 架空

- 第五問 (1) ウ (2) キ

■配点	第一問 各5点	第二問 各5点
	第三問 各5点	第四問 4点
	第五問 各3点	

◆解説

第一問

- (1) 述語が「人間で」＋「ある」で、主語になるのが「整理する」＋「のが」。一文の要点が「整理するのが人間である」となります。「周囲の」↓「情報を」↓「整理する」とつながります。

- (2) 付属語を自立語につけて文節を作ります。述語は「する」で、それに対する主語は「日本人」＋「は」。「相手」＋「の」↓「気持ち」＋「を」↓「察し」＋「ながら」↓「会話」＋「を」↓「する」とつながります。

第二問

- (1) 「保護する」「人間と」が不要。
- (2) 「心理」「判断が」が不要。

第三問

今度は一文字一文字がバラバラになっています。「小春日和」「疑心暗鬼」といった四字熟語を発見したかどうか。

第四問

舞台上に再現されるのは、原作である漫画・アニメの世界です。すなわち、イメージの完成された「架空」の世界です。

第五問

- (1) 「自分の有能さを誇り」「あなたに圧倒された周囲の人たち」とあるので、自分の才能を周囲に「顕示」することだと分かります。
- (2) 圧倒された周囲の人たちは嫉妬の目であなたを観察しがちになるから、あなたの僅かな過失でも見逃さなくなります。オ「望遠鏡」と、キ「顕微鏡」で迷ったかもしれません。「僅かな過失でも拡大されて」とあるので、周囲の人たちの目が「顕微鏡」となることが分かります。「望遠鏡」は遠くを見るためのものだから不適切。

《問題Ⅳ》 論理的読解力B

(40点)

●解答

- 第一問 先生が大学
- 第二問 伝統↓近代(現代)
- 第三問 そこで外面
- 第四問 (1) エ (2) オ (3) イ
- 第五問 (a) ウ (b) イ (c) エ

- (d) ア (e) オ (f) カ

■配点

第一問	6点	第二問	6点
第三問	6点	第四問	各2点
第五問	各2点		

◆解説

第一問

欠落文の中の指示語「この」に着目。その指示内容は「先生と鳥とは妙な因縁に聞こえる」とある中の「先生と鳥」。

第二問

四行目に「伝統的日本」とあるが、「新しい立派な家」「富の威力」は、「伝統的日本」ではなく、「近代」的日本。

第三問

「余分な一文」とは、その文があるために前後がうまくつながらず、その一文を取るとつながる箇所です。「そこで外面から射す夕暮に近い明りを受けて始めて先生の顔を熟視した」は直前とつながりません。

さらに、その後の「これはくからである」は、「あの鳴声にも伊太利の連想があるでしょう」と余は先生に尋ねた」の理由となっています。

第四問

「それから」「しかし」が接続語で、その他は副詞。

- (1) 逆接の「しかし」。
- (2) 蝙蝠こうもりの翼を悪魔の翼だと言った理由が空所直後で示されているから「なるほど」。
- (3) 時間的順番だから、「それから」。
- (4) 「もう」↓「なる」という副詞の呼応関係。
- (5) 「それほど」の「それ」の指示内容が空所直前。

第五問

- (a) 「過去の」「古ぼけた」とあることから「記念」。
- (b) 「故郷」と対立するのは「日本」。

《問題Ⅴ》 論理的表現力

(40点)

●解答例

- (c) 直後の「安っぽい」から、「空虚」。
- (d) 目覚ましい勢いで近代化する「新時代の世態」なので、「煤煙ばいえん」の巷。
- (e) サンダルで踏むのは「敷石」。
- (f) 後に、先生は伊太利出身であることがわかる描写があるので、イタリア半島の「半島」。

少子高齢化による深刻な労働力不足が懸念される日本において、在留外国人が増加すれば、労働力増加による人材不足の解消が期待できる。ただ、島国である日本は、日本語以外の言語を母国語とする人々にとってコミュニケーションが取りにくい上、多様な民族の文化や習慣、宗教を理解し対応できる環境が整っているとは言い難い。将来的に、外国人労働者なしでは日本の企業や社会が立ち行かないことを考えれば、単なる労働力として外国人を受け入れるのではなく、外国人が地域社会に根付いて生活することを踏まえた体制の整備が必要になる。多言語による情報提供の仕組みを作り、異なる文化的背景をもつ人々が共生できる社会を作る必要があるだろう。

■配点 40点

◆解説

本問は、自分の意見を書くものではないことに注意。あくまで論理的思考力を試すものであり、与えられた条件をもとに筋を通った文を作成できるかがポイントです。在留外国人の増加による日本社会への「影響」と「課題」それぞれについて、【使用する言葉】のうち、どの言葉を使うのが適切なかを考えましょう。まず「影響」について、「少子高齢化」は日本社会の現状を表すキーワードですが、少子高齢化にもなう「労働力」不足と、外国人の増加による「労働力」の増加を結びつけて考えることができます。一方、「課題」については、問題文に「日本で円滑なコミュニケーションを取るのには難しく課題がある」とあるので、これをヒントに、「宗教」「文化」「民族」「言語」を使ってまとめましょう。